

令和5年度  
舞台芸術等総合支援事業  
( 劇場・音楽堂等機能強化総合支援 )

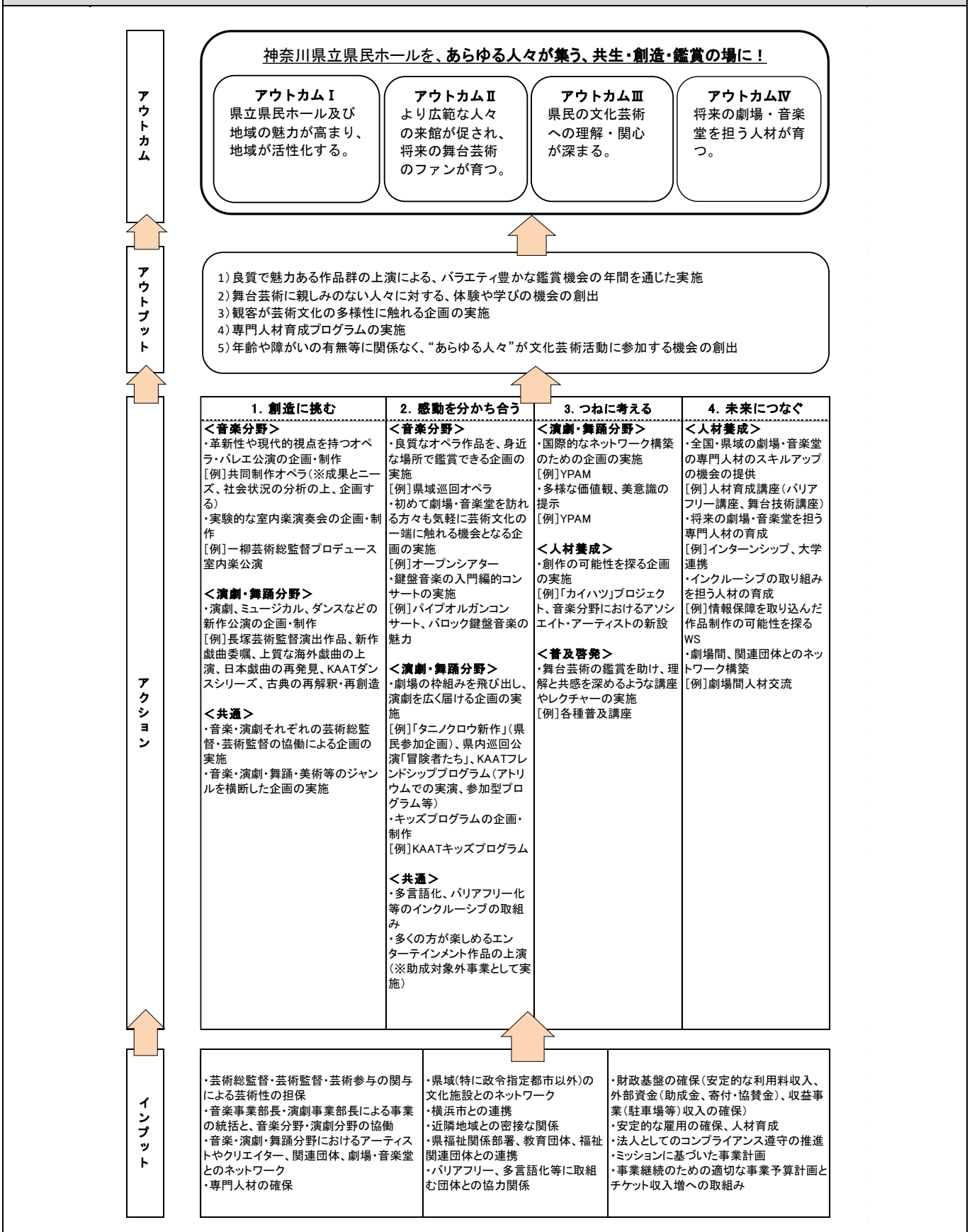
自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人神奈川芸術文化財団
施 設 名	神奈川県立県民ホール（本館／KAAT 神奈川芸術劇場）
助 成 対 象 活 動 名	あらゆる人々が集う場・神奈川県立県民ホール
助 成 期 間	5 (年間)
内 定 額	56,496 (千円)

# 1. 事業概要

## (1) 事業計画の概要

全体図（概念図）



アウトカム

アウトプット

アクション

インプット

(2) 令和5年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数(人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	1. 創造に挑む 「アメリカの時計」	2023年9月15日～10月1日	作：アーサー・ミラー 翻訳：高田曜子 演出：長塚圭史 出演者：矢崎広 シルビア・グラブ 中村まこと 河内大和 他	目標値	2,880
		芸術劇場 大スタジオ		実績値	2,814
2	1. 創造に挑む 「SHEEL」	2023年11月11日～26日	作：倉持裕 演出：杉原邦生 出演者：石井杏奈 秋田汐梨／石川雷蔵 水島麻理奈 成海花音 他	目標値	5,850
		芸術劇場 ホール		実績値	2,900
3	1. 創造に挑む 「C×C 作曲家が作曲家を訪ねる旅」	2024年1月13日	夏田昌和×アルノルト・シェーンベルク 出演：石上真由子 河村絢音 甲斐史子 西谷牧人 丁仁愛 有馬純寿 他	目標値	480
		本館 小ホール		実績値	347
4	2. 感動を分かち合う 「C×Organ オルガン・コンサート・シリーズ」	2023年4月～2024年3月	①オルガン・リサイタル ②オルガン・クリスマスコンサート ③オルガン・プロムナード・コンサート	目標値	1,760
		本館 小ホール		実績値	2,629
5	2. 感動を分かち合う 「虹む街の果て」	2023年5月13日～5月21日	作・演出：タニノクロウ キャスト：渡辺庸介(パーカッションист) 赤星満、神奈川県民を中心とした街の人たち	目標値	1,000
		芸術劇場 中スタジオ		実績値	936
6	2. 感動を分かち合う 「KAAT キッズ・プログラム 2023 『さいごの1つ前』」	2023年7月21日～24日 ※	作・演出：松井周 出演：白石加代子、久保井研、薬丸翔、湯川ひな	目標値	640
		芸術劇場 大スタジオ		実績値	591※
7	2. 感動を分かち合う 「KAAT キッズ・プログラム 2023 『くるみ割り人形外伝』」	2023年8月5日～13日	音楽：小春(チャラン・ポ・ランタン) 振付：山之口理香子 キャスト 全5名(子役はダブルキャスト) + バンド(小春+3名)	目標値	2,000
		芸術劇場 大スタジオ		実績値	2,397
8	2. 感動を分かち合う 「オープンシアター2023」	2023年8月19日	①ダンス劇『マリーの夢』 ②「くらべてみよう!オルガンとピアノのちがひ」(ワンコインコンサート)	目標値	1,608
		①本館 大ホール ②本館 小ホール		実績値	1,523
9	2. 感動を分かち合う 「ファンタスティック・ガラコンサート 2023」	2023年12月29日	出演：三ツ橋敬子 青木エマ 城宏憲 三戸大久 上野水香 厚地康雄 ブラウリオ・アルバレス 石田泰尚 中島剛 中田恵子 他	目標値	1,259
		本館 大ホール		実績値	1,940
10	(中止)			目標値	
				実績値	
11	2. 感動を分かち合う 「C×Baroque 大塚直哉が誘うバロックの世界」	2024年3月23日	出演：大塚直哉 市瀬陽子 村山亮 村山・横川バレエスクール所属生徒 コーヒーカップ・コンソート	目標値	240
		本館 小ホール		実績値	380
12	2. 感動を分かち合う 「県域巡回事業 みんなでたのしむオペラ『ヘンゼルとグレーテル』」	①2024年2月24日 ②2024年3月2日	みんなでたのしむオペラ「ヘンゼルとグレーテル」ピアノ版/日本語上演 構成：宮本益光、田尾下哲 演出：田尾下哲	目標値	650
		①寒川町民センターホール ②鎌倉芸術館 小ホール		実績値	557

13	2. 感動を分かち合う 「KAAT カナガワツアー プロジェクト2023 『三浦半島の人魚姫』『箱根山の美女と野獣』」	2024年2月3日～3月3日	作・演出：長塚圭史 出演：菅原永二、柿崎麻莉子、四戸由香、長塚圭史、片岡正二郎／トウヤマタケオ	目標値	2,800
		芸術劇場 中スタジオほか5地域		実績値	2,026
14	2. 感動を分かち合う 「KAAT フレンドシッププログラム」	2023年4月～2024年3月 芸術劇場	①鑑賞型プログラム ②参加プログラム ③定期開催劇場ツアー	目標値	1,000
				実績値	760
15	3. つねに考える 「舞台芸術講座」	①2023年9月23日 ②2023年11月18日  本館 小ホール	①青島広志の名曲レクチャーコンサート〈青島広志&萩尾望都の少女マンガ音楽史〉 ②シャリーノ作曲オペラ「ローエン格林」の魅力〈シャリーノ祭り〉	目標値	560
				実績値	647
16	3. つねに考える 「YPAM2023 横浜国際舞台芸術ミーティング」	①2023年12月14日、15日 ②2023年12月16日、17日  芸術劇場 大スタジオ	イタリア コンテンポラリーダンスショーケース ①*ルナ・チェネレ「KOKORO」 *ヤコポ・イェンナ「SOME CHOREOGRAPHIES」 ②*デューイ・デル「I' LL DO, I' LL DO, I' LL DO」 *ニコラ・ガッリ「IL MONDO ALTROVE」	目標値	780
				実績値	301
17	3. つねに考える 「カイハツ」	2023年4月～2024年3月 芸術劇場 他	①作品カイハツ ②人材カイハツ ③戯曲カイハツ	目標値	50
				実績値	311
18	4. 未来につなぐ 「リラクスパフォーマンスを考える」	2023年4月～2024年3月 芸術劇場 他	・プロジェクトチーム会議 ・リラクスパフォーマンス公演視察等調査	目標値	30
				実績値	0
19	4. 未来につなぐ 「人材育成講座」	2023年6月～2024年3月  本館、芸術劇場	①バリアフリー&利用業務基礎知識講座 ②舞台技術講座	目標値	①40 ②80
				実績値	①28 ②127
20	4. 未来につなぐ 「インターンシップ」	2024年1月～2024年2月	①公共ホール事業制作 ②劇場運営 ③舞台技術	目標値	(1)2～4 (2)(3)3
		本館、芸術劇場		実績値	(1)2 (2)(3)3
21	4. 未来につなぐ 「大学連携企画」	2023年6月～2024年3月	①東京音楽大学との連携事業 ②KAAT×大学・研究機関 ③昭和音楽大学との連携事業	目標値	150
		本館、芸術劇場、昭和音楽大学		実績値	138

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。</p> <p>○当事業計画においては、令和3年度からの5年間において、神奈川県立県民ホールが目指す最終アウトカム「神奈川県立県民ホールを、あらゆる人々が集う、共生・創造・鑑賞の場に」を発現させることに取り組んでおり、3年目となる令和5（2023）年度は、5月より新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類」に見直されたことに伴い、感染対策は全般的に緩和されたが、引き続き安全・安心に施設を利用できる環境を維持しながら、全体的には計画通りに事業計画を進めることができたと考える。</p> <p>○神奈川県の拠点劇場として、神奈川県立県民ホールの掲げる4つのアクションプラン「創造に挑む」「感動を分かち合う」「つねに考える」「未来に繋ぐ」を明確に踏まえた事業展開を行った。令和5（2023）年度は、演劇作品の創作初演や、劇場が独自に企画した現代音楽公演といった創造性の高い公演の実施、良質な音楽公演、子どもや県域の方々に向けた観客の多様化を図る公演の実施、県民の芸術への理解を深める講座等の実施、その他未来の芸術文化を担う人材を育成する人材育成事業等を実施した。これらの公演や事業がバランスよく有機的に実施されていることにより、ミッションの達成に向け、着実に進むことができていると考える。</p> <p>○一方で、新型コロナウイルス感染症の影響は継続しており、令和5年度も一部の事業で公演回数の減少等が生じた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>○文化的意義 アクションプラン「創造に挑む」の事業は、創造性の高い事業を実施することによる新規顧客の拡大を図るものであり、令和5（2023）年度は、音楽事業では「C×C 作曲家が作曲家を訪ねる旅」を、演劇事業では長塚芸術監督演出の「アメリカの時計」のほか、「SHELL」を創作して上演した。これらの公演は評論にも取り上げられ一定の評価を得ており、芸術文化の水準の向上に寄与したと考えられる。</p> <p>○社会的意義 「オープンシアター2023」は本事業の特徴である多言語対応、手話通訳、楽器見学、バックステージツアーといった取組を実施し、開放的な雰囲気醸成しながら地域へ劇場を開き、地域のにぎわいの創出に寄与した。また、「KAAT フレンドシッププログラム」は外から歩く人々からも見える KAAT アトリウムを中心にプログラムを展開し、劇場が地域にとっての「広場」の役割を担うことを意図した事業であり、バックステージツアーやアトリウムでの体験型企画等を定期的実施し、劇場の社会的役割を見出すことができた。そのほか、「アメリカの時計」における字幕鑑賞サポートの設置、「くるみ割り人形外伝」におけるヒアリンググループの設置、「フレンドシッププログラム」における手話付きバックステージツアーの実施等、誰もが芸術文化を楽しめるためのインクルーシブアプローチにも社会連携ポータル部門を中心に取り組み、地域の芸術文化振興に寄与した。</p> <p>○経済的意義 県域の拠点劇場としての取組として、県域巡回オペラ「ヘンゼルとグレーテル」を、寒川町、鎌倉市にて上演したほか、「KAAT カナガワツアープロジェクト 2023 『三浦半島の人魚姫』『箱根山の美女と野獣』」を、県内の5地域で実施した。巡回公演は、県域全体に良質なコンテンツを届け、地域の文化振興に寄与するだけでなく、継続的に実施していくことにより、ホールと地域の魅力を高め、その劇場周辺の地域経済にも貢献すると考える。</p>

## (2) 有効性

自己評価			
目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。			
以下の目標を設定し、それぞれに指標を置いた。			
<b>目標【1】</b> 創造性／独自性の高い、魅力的な公演事業の実施により、既存の観客に加え新規の観客を開拓する。	<b>目標【2】</b> 親子向け事業、参加型公演、県域・県外での巡回公演、鑑賞面のバリアフリー化の取組等により、観客層の多様化を図る。	<b>目標【3】</b> 多様な表現を提示し、観客・参加者に新たな視点を提供する。	<b>目標【4】</b> 将来の劇場・音楽堂に必要な、多様で専門性を持った人材を養成する。
対応する指標 ①②③④⑤⑥⑦	対応する指標 ①⑤⑥⑧⑨⑩	対応する指標 ⑨⑪⑬	対応する指標 ①⑫⑬
指標			令和5年度達成状況
①事業実施数（公演事業12事業）（普及啓発事業3～4事業）（人材養成事業5～6事業） ②年間来館者数（71万人） ③主催事業において、初めて本館／KAATを訪れる観客数の割合（25%） ④1年以内の再来場者（リピーター）数の割合（25%） ⑤主催公演への満足度（アンケート満足回答80%以上） ⑥メディアへの露出（事前告知140件、事後告知創造性、独自性の記載あり） ⑦外部評価委員による評価（創造性、独自性の記載あり） ⑧子ども及び若年層向けチケット販売数（2,800枚） ⑨新たな芸術文化体験をした人数の割合（5%） ⑩巡回公演（県域・県外）の実施数及び実施地域の多様化（年間3事業8地域） ⑪参加アーティスト数（40人以上） ⑫人材養成事業への参加者数（280人） ⑬参加者からのフィードバック（分析）			①公演事業が未達成だった ②達成できた ③達成できた ④達成できた ⑤達成できた ⑥達成できた ⑦達成できた ⑧未達成だった ⑨達成できた ⑩達成できた ⑪達成できた ⑫達成できた ⑬達成できた
<p>○目標【1】：公演事業において、助成要件を満たさず1事業取り下げたものがあり、事業数がわずかに指標に到達しなかったが、多くの来館者と高い満足度により、目標は概ね達成されたと考える。</p> <p>○目標【2】：子ども及び若年層向けチケット販売数がわずかに指標に到達しなかったものの、様々な観客に向けた多様な事業の実施と、高い満足度により、目標は概ね達成されたと考える。</p> <p>○目標【3】：すべての指標を達成し、目標は概ね達成されたと考える。「カイハツプロジェクト」では、多角的なワークショップに取り組むことにより、参加者に新たな視点を与えるとともに、継続して行うことにより、内容の一層の充実に取り組んでいる。</p> <p>○目標【4】：人材養成事業の事業数を含めすべての指標を達成し、目標は概ね達成されたと考える。特にインターンシップでは、昨年度に引き続き体系化されたプログラムとなり、自信の今後へ向けての課題や、やりたいことが見つかったという意見があり、効果的なプログラムとなった。</p> <p>○総合的に、概ね指標が達成されたことにより、1～4のそれぞれの目標も概ね達成されたものとする。公演の創造性・独自性、観客の多様化、観客や参加者への新たな視点の提供、専門人材の養成プログラム等の要素が有機的に連携し、それぞれのアウトカムおよび最終アウトカム「あらゆる人々が集う、共生・創造・鑑賞の場」の発現に向け、有効性が示されていると考える。</p>			

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

○事業は音楽・演劇の各事業部長を中心に、音楽分野・演劇分野のそれぞれの芸術監督、芸術参与との会議において対話を重ねながら共有し、それを適宜財団の常勤理事による会議（マネジメント会議）で報告、共有することにより財団全体としての方針を構築している。したがって事業期間は適切に管理されており、3年目の行程は概ね計画通りに進行したと考える。

○個別の事業においては、新型コロナウイルスの影響により一部に上演回数の縮小等を余儀なくされた事業もあり、事業計画の変更をせざるを得なかった。

○公演個別事業（特に演劇分野）の一部において、事業期間やキャストの変更、要望時に内容の一部が未定だったものがあつた。これらは事業を創作する進行の過程において、計画の見直しが生じたことや、演出プランが徐々に決まっていっただことが主な要因であるが、当初計画の趣旨に齟齬が生じることなく、事業実施の効果が最大限に高まるよう取り組んだ。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

○予算は各公演担当者からの報告により、事業責任者（チーフプロデューサー、事業部長等）が常に管理しており、3年目の事業費の執行は、概ね計画通りに進行したと考える。

○令和5年度事業費 当初支出 254,988千円、決算支出 212,836千円 予算決算差異 42,152千円 (83.5%)

○令和5年度は新型コロナウイルスの影響により一部に内容変更、上演回数の縮小等を余儀なくされた事業もあり、事業計画の変更をせざるを得なかった。公演回数等が減少したことにより、収入も減少したが、支出の抑制を行うとともに、他の助成金・補助金等も積極的に活用し、財政的な安定の確保に努めた。

○個別事業（特に演劇分野）の一部において、事業費に変更が生じたものがあつた。これは創造の過程において、計画の見直しや演出プランの確定により事業規模や同一事業内での経費配分の変更等が主な要因であつたが、当初計画の趣旨に齟齬が生じることなく、事業実施の効果が最大限に高まるよう取り組んだ。

○神奈川県立県民ホールの指定管理者である当財団は地方公共団体が100%出資する第3セクターであり、その行政管理の考え方のもと県に準じた透明性の高い基準で運営され、かつ公益法人としての会計基準等に従って運営されている。そのような性格を有する法人による劇場運営のもと、当初の計画に沿って、またコロナの影響等によりやむを得ない変更が生じた場合には、必要に応じた手続きのもと計画を変更し、事業を遂行している。

## (4) 創造性

### 自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

○芸術監督、芸術参与は、神奈川県立県民ホールの指定管理者である財団全体の財政状況、県との指定管理協定の状況、財団における組織的課題などについて、運営責任者である事業部長から随時情報の提供を受け、それを基に、劇場のミッションに照らし合わせて自主事業全体に関する構想を練り、事業部長および各課のリーダーからなる会議においてその構想を議論し、また現場からの意見も取り入れつつ、すべての自主事業の内容（音楽ではラインナップのバランス、出演者、作曲者、曲目等／演劇では演目、クリエイティブリーダー、公演時期、規模）の決定を主導している。それにより、芸術監督の方針、芸術の果たすべき社会的な役割、観客と共有すべき芸術体験などを強く反映したプログラムの策定が実現できている。

○音楽事業を主とする本館では、一柳慧芸術総監督(※)と、その補佐役である沼野雄司芸術参与が、自主事業全体の指針を示す役割を果たしている。沼野参与が一柳総監督の意を受けその学識、知見を発揮し事業の具体化への助言指導をおこなっている。

その具体的な効果、影響については、令和3(2021)年度よりスタートした、本館小ホールにおける、「Composer、Classic、Contemporary」というキーワードで再構成する「C×…」の取り組みで、従来の事業がブラッシュアップされ、新たに現代音楽への扉を開く企画も加わり、小ホールが現代を生きる室内楽空間として始動したことがあげられる（「C×C」ほか）。

(※)芸術総監督である一柳慧は2022年10月に逝去したが、当事業計画は一柳芸術総監督の指導の下で練られたものである。その遺志を継ぎ、音楽分野は引き続き一柳慧芸術総監督の方針に基づき事業運営を行っていく。

○演劇・舞踊の事業を主におこなうKAATにおいては、長塚圭史芸術監督が、劇場の目指すべき姿と自主事業全体について、指針を示し先導する役割を果たしている。

具体的には、長塚芸術監督の示す指針により、KAATは、これまでの独自性の高い先鋭的な作品群の創作発信という成果を受け継ぎつつ、地域・県域とのコミットメントを強く意識し、多様な観客に「ひらかれた」劇場であることを目指したプログラムとなっている（「KAATキッズ・プログラム」「KAATフレンドシッププログラム」など）。また、シーズン制を取り入れ劇場の活動にリズムを持たせたこと、いわゆるシアターゴウアーだけを対象とするのではないものとして広報誌をリニューアルしたことなども、長塚芸術監督の示した指針に基づくものである。一方、劇作家でもある長塚芸術監督が力を入れる取り組みとして、近現代の日本戯曲の再発見、新作戯曲上演、翻訳戯曲をより質の高い日本語上演とする試みなどがあり、独自の創造性を示している。また、長塚芸術監督は人材育成や新たな表現の発見や開発にも意欲的であり、これまで続けてきた取り組みに加え、新たな取り組みを始めることができている。（「カイハツプロジェクト」）

○前述の内容を踏まえ、個別事業において音楽事業では、「C×C 作曲家が作曲家を訪ねる旅」は過去と現代の「作曲家」を引き合わせ、未来へとつながる芸術表現を模索する企画を、令和3(2021)年度からの新シリーズとして実施し、プログラムの監修を作曲家に委ねることで、過去の作曲家との対話を通じて、作曲家自身があらためて自己探求を行い、結果的にそれぞれの作曲家の新たな魅力を紹介するユニークなプログラムとなり、独創性や新規性を示した。令和5(2023)年度においても、幅広い世代が多角的に音楽の魅力を堪能することができる内容を目指し、国内トップレベルの演奏家を起用し、各作品に新たな生命を吹き込み、これまで現代音楽に触れたことのない聴衆にも、現代音楽鑑賞への興味を喚起すると同時に、メディアに話題性を提供することにも結びつけることができた。

演劇事業では、「アメリカの時計」は長塚芸術監督が演出を担当し、原作のアーサー・ミラー作品の中でも日本での上演歴がほとんどなかった本作に挑み、早川書房「悲劇喜劇」2023年9月号に上演台本が掲載されるなど、秀



逸な戯曲に脚光を当てることにも成功した。また「SHELL」では、第48回岸田國士戯曲賞を受賞するなど高い評価を受け、舞台のみならずドラマ・映画など活躍の幅を広げ続ける劇作家・演出家の倉持裕に新作戯曲書き下ろしを委嘱し、単なるストレートプレイではなく、音楽・空間・舞台美術・身体を最大限に生かした総合芸術的な作品として、本作を昇華させた。今季テーマである「貌（かたち）」を体現するオリジナル作品を神奈川出身の劇作家・演出家らと共に創作したことで、舞台芸術振興拠点劇場としての独自性・創造性を地域内外に発信することができた。

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

#### （1）国内での評価

音楽事業では、「オルガン avec バレエ」（ダンスマガジン4月号）、「C×C 作曲家が作曲家を訪ねる旅」（音楽現代3月号）等に記事が掲載され、いずれも演奏や企画内容に高評価が寄せられ、当該事業の客観的な評価と考える。

演劇事業では「虹む街の果て」（読売新聞6/6付）、「アメリカの時計」（朝日新聞9/22付、9/28付）、「KAAT カナガワツアープロジェクト2023 『三浦半島の人魚姫』『箱根山の美女と野獣』」（AERA dot 2/25付）等に劇評などが掲載され、いずれも内容や演出等への指摘は当該事業の客観的な評価と考える。

複数の対象事業において、新聞・専門誌等で劇評が掲載されたことは、神奈川県立県民ホールの実業そのものに対する評価の向上につながっていると考えられる。

#### （2）地域社会からの評価・期待

県民ホール本館は1975年の開館以来、神奈川県を代表する大型文化施設として県民の方々に親しまれてきたホールであり、エポックメイキングな海外招聘のオペラ・バレエや有名アーティスト等の鑑賞会場としてだけでなく、大きな舞台面を生かした合唱、モダンバレエ、文化賞授賞式や広いギャラリーを使った県美術展など、県民による自主的な文化活動への参加の場であった。その基盤がある上に、当事業計画による創造活動や広域展開の充実が加わり、広域拠点としての活動の充実につながっている。

他方、2011年に県民ホール本館と一体運営で設置されたKAATは、当初から劇場法の理念を体現するミッションを掲げた運営を目指してきたが、同様に当事業計画による創造活動や広域展開の充実が実現できたほか、プロフェッショナルな人材育成の場としての役割も広域的に果たすことができた。

その結果、ステークホルダーとの関係としては、設置者である神奈川県からは指定管理者モニタリング評価としてA評価（令和元年度、令和3年度、令和4年度なお令和2年度はコロナ禍による閉館等の影響によりB評価）といった高評価を受けているほか、指定管理の活動の成果や充実した機能・人材を生かして、指定管理とは別に、県域の文化資源等の調査業務や、共生社会の実現をテーマにした文化芸術の新しい取り組み「共生共創事業」を継続して受託するなど、県民ホール・KAATに集積された機能を活用していくことを県からも期待されている。

施設が所在する横浜市とは、市が主催する大規模アートフェスティバル（ダンス、音楽、美術）に主体的に参画するなど協力関係にあり、令和5年度も（公財）横浜市芸術文化振興財団、特定非営利活動法人国際舞台芸術交流センターとともに、「横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）」を共同で主催している（助成対象事業）。このほか、近隣地域との連携として、「KAAT×横浜中華街」タイアップ企画として、公演チケットの半券提示サービスを実施している。対象公演のチケット提示で、横浜中華街の参加店舗で割引などのサービスが受けられ、好評を得ている。これらの連携により、地域からの当劇場の評価は高まっており、また今後も県の文化政策を地域と一体となって担っていくことが期待されている。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

○当事業計画をはじめとする財源の多様化による持続性の強化、指定管理業務のほかに、県の文化芸術に関する委託事業を劇場が有する専門機能を活用するスキームで受託することで、県の文化政策に積極的に参画している。

○支援者の安定的な確保のため、県内企業及び個人を中心に賛助会員制度を運営しているほか、インターネットを通じた小口寄付の仕組みを整備し、寄付者の拡大を図っている。令和5（2023）年度はインターネットによる小口寄附システムの更なる見直しを行い、用途を明確化して館ごと、事業ごとに幅広く寄附できる仕組みを整備したところ、小口寄附の件数が大幅に増加した。少額の寄付を手軽に行えるオンライン小口寄附は多くの方の利用があり、特に「障がいをお持ちの方への鑑賞サポート」や「公演へのこども招待」といった、社会課題に対応した取組に対して、多くの寄付を頂いた。

○設置者（県）が行う専門家による外部評価のほか、法人独自の外部評価の仕組みを整備し、有識者による視察と事業評価を行っている。その上で、外部評価員と劇場スタッフが出席する評価会議を開催し、課題抽出や評価手法の確認、前回会議からの業務改善課題の検証等を行い、さらにその会議結果を次の業務改善につなげている。合わせて、評価会議で劇場・音楽堂等機能強化推進事業の採択や実施結果等についても報告し、その枠組みで期待されるアウトカムの発現等についても総合的な確認を行っている。評価会議の結果は、最終的に理事会へ報告することを義務付けており、トップマネジメントによる継続的な業務改善の取り組みとして定着している。

○雇用及び人事戦略としては、トップマネジメントの強い指導のもと、「働き方改革」に向けた取組みを継続し、ワークライフバランスの取れた労働環境の創出に努めている。施設あるいは業務（施設管理・事業制作）に固定しがちだった職員を、財団本部を含め、ジョブローテーションを行うことで、財団全体の業務の平準化とノウハウの共有、さらには業務改善に取り組んでいる。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

「(2)有効性において」、当事業計画における1~4のアウトカムが総合的に発現が望める状態であることから、長期アウトカム「あらゆる人々が集う、共生・創造・鑑賞の場に」が発現できる見込みと考える。

また、令和3（2021）年度より、これまで神奈川県立県民ホールの各部門がそれぞれ取り組んできた「専門人材育成プログラム」「学校教育へのアプローチ（エデュケーションアプローチ）」「あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ」「地域との連携を強化する機能（県域ネットワークプログラム）」について、これまで培った知識や経験といった機能を集約した部署「社会連携ポータル課」を財団本部に設置した。当事業計画においても、主にミッション「未来へつなぐ」の事業を中心にホール事業担当者と社会連携ポータル担当者が協働して事業に取り組んでおり、その機能をより強化し、また県域の文化施設や他の団体等の社会と芸術をつなげる窓口となることで、引き続き事業の持続性がより高まると考えている。

財源や施設の基盤安定に関する取組み及び関係ネットワークの強化により、当事業計画が持続的に推進され、評価活動および雇用・人事戦略によって改善されていくことにより、あらゆる人々が集う場、共生の場としての劇場の在り方を見据え、今後の活動を継続していきたい。